

共同募金会の取り組み

(東日本大震災における取り組み)

義援金(約409億円)

※日赤等への寄付含め、被災自治体への送金額:4116億円

災害等準備金(災害ボランティアセンター支援)

赤い羽根募金の災害時積立金から
約100か所の災害VCに助成(7億円)

※全国の共同募金会が拠出

被災者支援

【ボラサポ】災害ボランティア・NPO 活動サポート募金(約42億円)

今回新設の「支援金」(2015年まで継続)。被災地のボランティアグループ、NPO・NGOへの助成(50万円から300万円まで助成。これまで12回の助成で2534団体に29億円の助成(他に3県委託の少額助成~3446件・3億円))

【支援P】災害ボランティアセンター運営支援(人材の派遣、仮設拠点の設置、資機材の提供)

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議事務局(約7億円の寄付)

支える人を、支えるしくみ。

ボラサポ(赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」)

1. 目的

ボランティアやNPOと被災地の人々が協力しあい、つながりをはぐくみ、コミュニティの再興に向けた市民の力を高める(5名以上のボランティア団体からNPO法人まで助成対象)

2. 3つのプログラム助成で長期に支える(2015年3月までの予定)

- ①緊急救援(スピード感のある支援)
- ②生活支援(NPOによる専門性の高い活動への支援)
- ③復興支援・コミュニティ活動(地元市民主体の活動支援＝新しい価値づくり)

3. 助成の状況(これまで12回の助成決定)

のべ2534団体に29億円の助成

4. 特色

被災者と被災者を支える活動団体と寄付者の間に、寄付と助成を通じて循環の仕組みづくり

※詳しくは、Facebookボラサポ公式ページ

(<http://www.facebook.com/borasapo>)

助成金など活動資金で何をしたいのか？

●WHY？

自分たちはなぜ活動をしているのか？
(何に心をうたれて活動を始めたのか)

●TO WHOM？

自分たちが取り組んでいる課題(テーマ)は何か？
誰のために活動をしているのか

●WHAT？

課題を解決するために何をしているのか？自分たちの活動がその問題を解決するのか(活動の社会的意義)

●HOW？

どのような具体的手段で社会問題を解決しようとしているのか

☆明治の「募金家(ファンドレイザー)」渋沢栄一が目線

・3つの「明朗」(目的、担い手の意志(心意気)、会計)

助成を通じた復興への寄り添い

- 被災者への寄り添い

- ①高齢化の中で、住まい方の選択肢を多様とできるか
- ②地域社会の一員としての役割や絆をどのように創出するか
- ③雇用機会と働くよろこびをどう創出するか

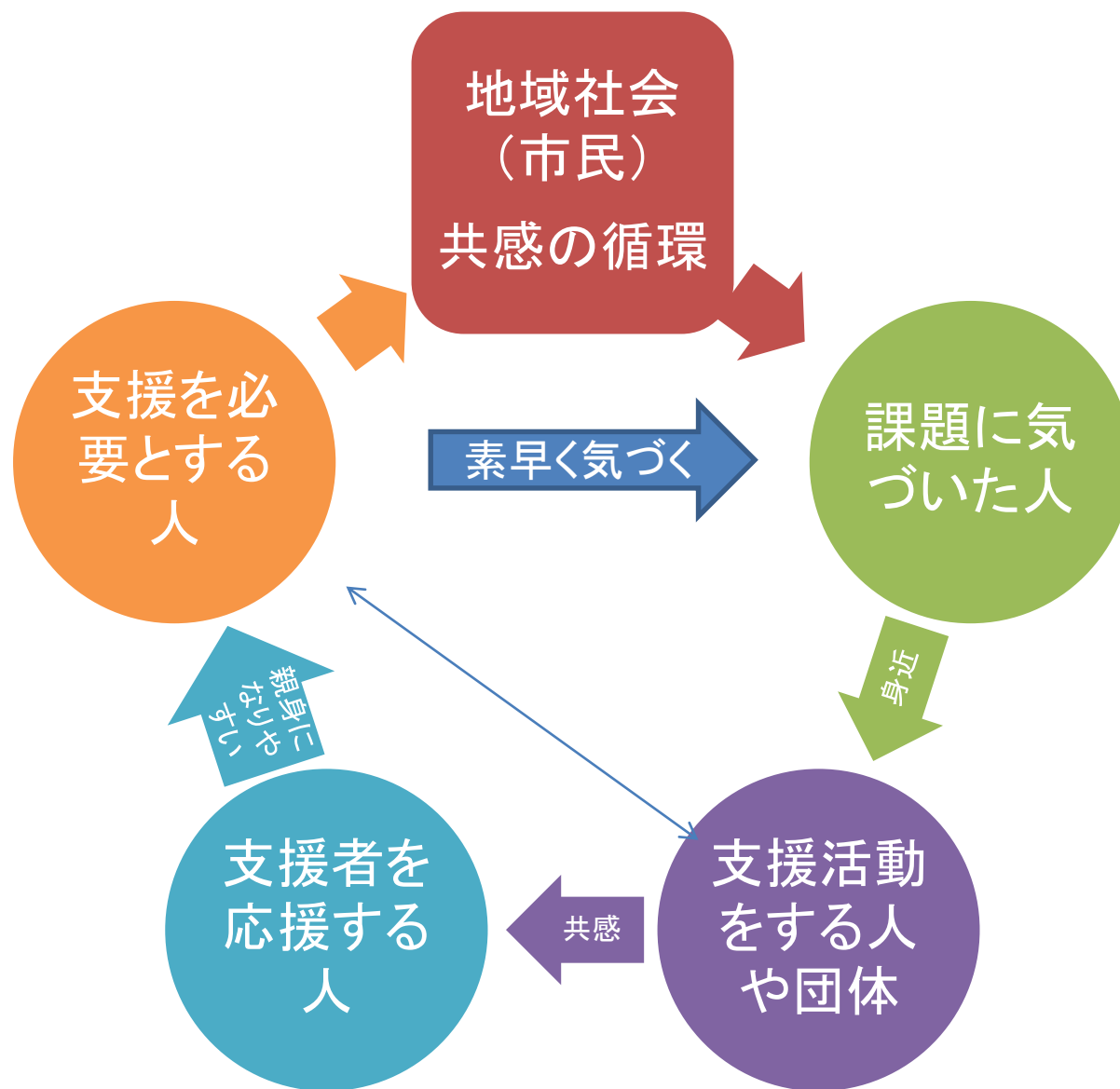
- 専門性の高い人材育成の必要性

- ①コミュニティワーカー、コーディネーター、専門職
- ②専門的なネットワークをつなげる、専門的なスキルを持つ人材の育成
- ③支援者を支援する活動やネットワーク

- 復興に向け「長いスパン」に渡る活動資金の必要性

- ①NPOはじめ専門性を活かした活動
- ②住民の主体的な活動への支援、コミュニティの再構築、
- ③中間支援組織による相談機能の充実。NPOなどの活動団体の組織の基盤強化への支援強化
- ④もともと存在していた地元団体の活動再開への支援の必要性(エンパワーメント的な機能)

「志あるお金」の循環





2014.03.29

中央共同募金会「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金(ボラサポ)」

- ボラサポ＝東日本大震災の被災地などで活動する NPO のための助成金
- これまでの寄付:43億円 (2014.03.07)
- これまでの助成:のべ2534団体に31億9088万円(支え合い助成含む)
- 520 万人(ボラサポの助成を受けて活動した人数 (概数))
※参考:阪神淡路大震災ボランティア 約 216 万人

■ ボラサポとは?【しくみ】

1. プログラム

- ① 短期活動 :30日未満 上限50万円
- ② 中長期活動 :30日以上 上限300万円
- ③ 中長期活動 :30日以上 上限1000万円
- ④ 住民支え合い活動助成 :上限10万円 1団体1年間に2回まで

2. 対象団体

- ・ 非営利を目的にする5人のグループ
- ・ NPO 法人、社会福祉法人など

3. 対象地域

- ・ 岩手県・宮城県・福島県
- ・ 避難先となる日本全国の活動

4. 助成活動

- ・ 泥かき、ボランティアバス事業、サロン、見守り活動、子どもの学習支援、保養活動
- ・ 動物保護、コミュニティFM 運営、広域避難者支援活動 など

5. 対象経費

- ・ 物品・資材・消耗品費、通信運搬費、印刷費、水道光熱費、研修費、旅費交通費
- ・ コーディネーターへの人件費 など

6. 地元の住民団体を支える「住民支え合い活動助成」

- ・ 簡単な書式・簡単な報告、身近な市町村・都道府県の窓口で受付
- ・ おおむね1か月で助成決定
- ・ これまでの助成:のべ3662団体に3億1135万円

■ ボラサポとは?【特長】

1. 助成回数の多さ

- ・ 1年目 6回 2年目 4回 3年目 3回 4年目 3回

2. 助成件数の多さ

	助成種類	件数	金額	1件平均
ボラサポ	ボラサポ	2520件	28.6億円	113万円
	住民支え合い助成	3966件	3.2億円	7万円

3. 助成決定率の高さ

	決定率
短期活動	73%
中長期活動	51%
全体	60%

4. 現地状況の変化に応じた助成

- ・ ほぼ毎回の応募要項改訂

5. 情報公開の徹底

- ・ 応募総数、応募総額、助成総数、助成総額、1団体平均額
- ・ 助成決定団体名、所在地、活動概要、活動地域、助成決定額
- ・ 決定プロセス(助成決定に当たって)、寄付額(毎日/1週間に1度更新)、活動報告、耳寄り情報などのFacebook ページ

■ 助成内容の移り変わり

1. 概要

- ・ がれき撤去や炊き出しなど震災直後の緊急救援で 5 億円、仮設住宅でのみ守り活動や子どもたちへの学習支援など生活支援活動で 9 億円、まちづくりやコミュニティ再生につながる復興支援活動に 11 億円等。

2. 初動期

- ・ 炊き出しや避難所支援、物資支援など震災直後の緊急救援的なニーズが主

3. 発災後1年間経過した時点頃から現在まで

- ・ 被災地では、市町村で、あるいは県内で、多様な団体により重層的なネットワークづくりが進み、いずれも時間の経過とともに新たに出てきた課題に対して関係者がつながり合って、知恵や企画を出し合い、活動の創出にあたってきた

- ・ たとえば、次のような資金ニーズ例が出てきた

- ア. 被災した当事者の方がた自身が立ち上がり、仮設住宅地域におけるサロン開設など、新しく暮らす場となった地域で新たなコミュニティづくりや、もともとの暮らしの場であったコミュニティの復興に向けた活動
- イ. 子育て支援、児童・生徒の学習支援、専門職によるカウンセリング、復興に向けた市民参加型のまちづくり計画策定など、テーマ型の活動
- ウ. 自立に向けた「仕事づくり」につながる活動
- エ. 県外避難者へのもてなしや避難者同士の交流促進などの活動

4. 住民同士の支え合い・助け合い活動、住民が主体となった活動の増加

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」の助成状況

募金額(目標額:50億円):43億9403万3518円(2014年3月7日現在)

※ 寄付募集期間:2011年3月11日～2013年12月31日 (予定)

	全体状況					短期活動					中長期活動					中長期活動				
	応募			助成決定		応募			助成決定		応募			助成決定		応募			助成決定	
	件			件	採択率	件			件	採択率	件			件	採択率	件			件	採択率
第1回	125	2億5,596万円	102	2億0,142万円	82%	23	767万円	22	466万円	96%	102	2億4,829万円	80	1億9,676万円	78%	-	-	-	-	-
第2回	297	5億5,065万円	217	3億2,406万円	73%	95	2,523万円	79	1,584万円	83%	202	5億2,542万円	138	3億0,822万円	68%	-	-	-	-	-
第3回	405	6億6,900万円	285	3億4,491万円	70%	158	4,727万円	133	3,311万円	84%	247	6億2,173万円	152	3億1,180万円	62%	-	-	-	-	-
第4回	408	5億7,891万円	327	3億3,596万円	80%	214	6,396万円	189	4,843万円	88%	194	5億1,495万円	138	2億8,753万円	71%	-	-	-	-	-
第5回	365	5億2,127万円	305	3億3,819万円	84%	181	5,830万円	163	4,239万円	90%	184	4億6,297万円	142	2億9,580万円	77%	-	-	-	-	-
第6回	367	5億3,144万円	261	2億6,678万円	71%	182	5,720万円	151	3,935万円	83%	185	4億7,424万円	110	2億2,743万円	59%	-	-	-	-	-
第7回	325	6億0,697万円	217	2億6,422万円	67%	129	4,181万円	104	2,606万円	81%	189	4億9,832万円	111	2億2,301万円	59%	7	6,684万円	2	1,515万円	29%
第8回	439	7億6,775万円	268	3億0,784万円	61%	183	5,924万円	150	3,706万円	82%	246	6億1,006万円	113	2億2,845万円	46%	10	9,845万円	5	4,233万円	50%
第9回	385	5億0,689万円	201	1億1,507万円	52%	207	7,091万円	155	3,905万円	75%	176	4億1,598万円	46	7,602万円	26%	2	2,000万円	0	0万円	0%
第10回	393	5億5,113万円	186	1億4,628万円	47%	219	6,848万円	130	3,198万円	59%	168	4億2,586万円	55	1億0,499万円	33%	6	5,679万円	1	931万円	17%
第11回	344	6億8,406万円	93	1億3,736万円	27%	108	4,578万円	26	926万円	24%	227	5億7,171万円	66	1億2,228万円	29%	9	6,657万円	1	582万円	11%
第12回	164	2億9,943万円	58	8,396万円	35%	67	2,689万円	22	655万円	33%	93	2億3,837万円	35	6,908万円	38%	4	3,417万円	1	833万円	25%
第13回	152	3億2,320万円				40	1,722万円				110	2億8,617万円				2	1,981万円			
支え合い				3億0,235万円																
計	4,169	68億4,666万円	2,520	31億6,840万円	60%	1,806	5億8,996万円	1,324	3億3,374万円	73%	2,323	58億9,407万円	1,186	24億5,137万円	51%	40	3億6,263万円	10	8,094万円	25%

第1回(応募期間:2011年4月14日～4月30日 助成決定2011年5月27日)

第2回(応募期間:2011年5月 9日～6月10日 助成決定2011年7月15日)

第3回(応募期間:2011年6月20日～7月31日 助成決定2011年9月 8日)

第4回(応募期間:2011年8月10日～9月30日 助成決定2011年11月 10日)

第5回(応募期間:2011年10月10日～11月30日 助成決定2012年1月27日)

第6回(応募期間:2011年12月10日～2012年1月30日 助成決定2012年3月28日)

第7回(応募期間:2012年3月1日～3月30日 助成決定2012年6月20日)

第8回(応募期間:2012年6月1日～6月29日 助成決定2012年9月13日)

第9回(応募期間:2012年9月1日～9月28日 助成決定2012年12月13日)

第10回(応募期間:2012年12月25日～2013年1月25日 助成決定2013年4月9日)

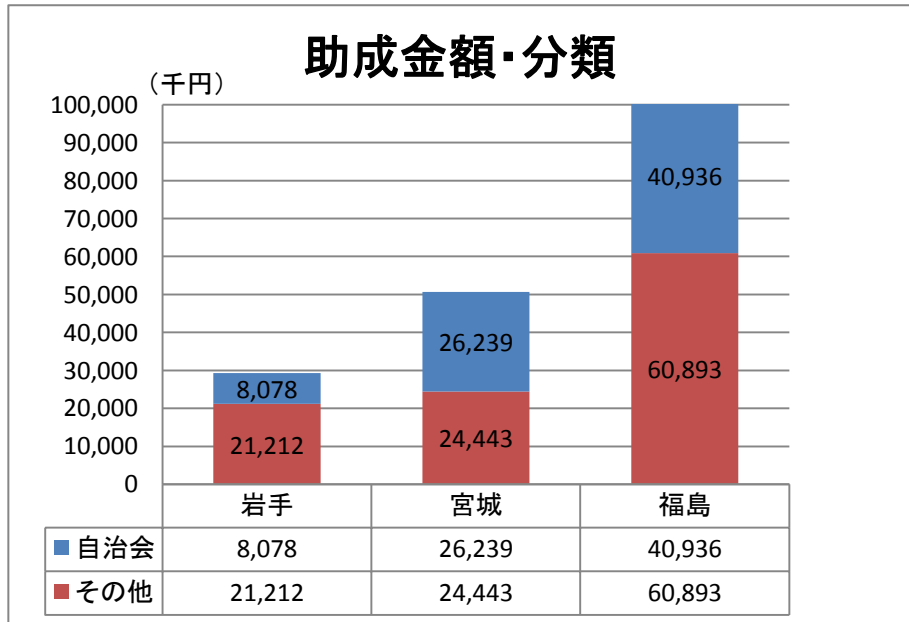
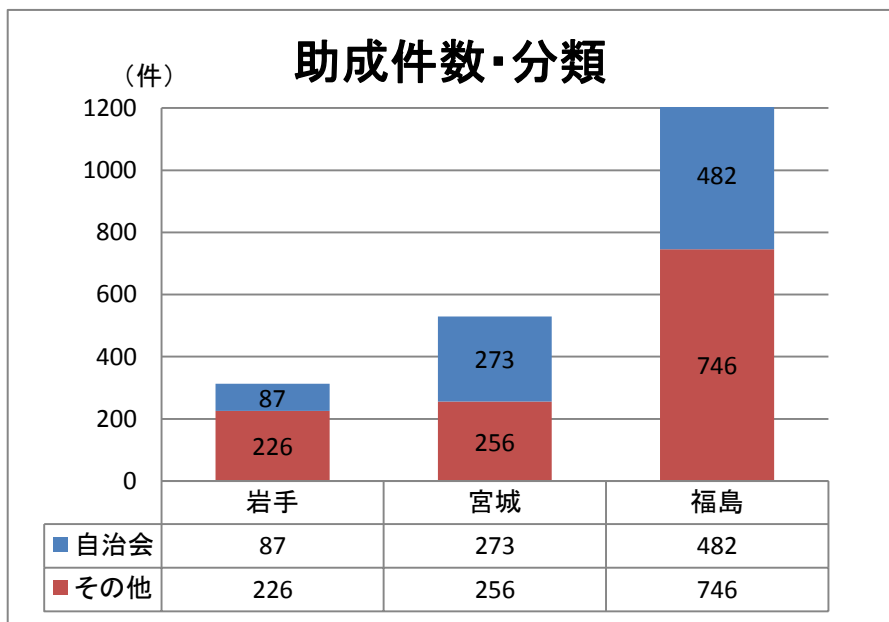
第11回(応募期間:2013年5月10日～2013年5月24日 助成決定2013年8月24日)

第12回(応募期間:2013年9月10日～2013年9月25日 助成決定2013年12月16日)

第13回(応募期間:2014年1月10日～2014年1月24日 助成決定2014年4月予定)

第14回(応募期間:2014年5月12日～2014年5月27日 助成決定2014年8月予定)

2013年度・住民支え合い活動助成 団体分類



【その他・具体例】

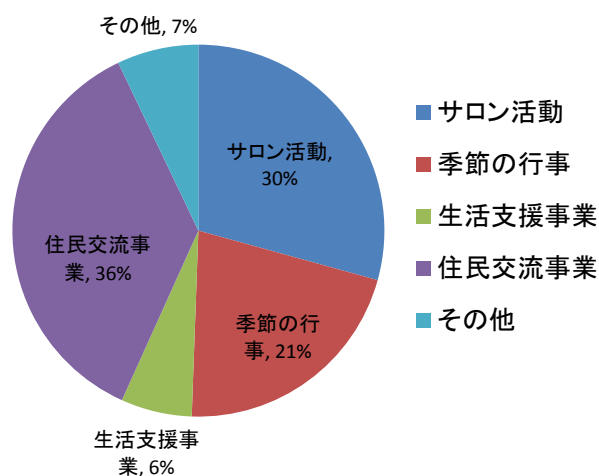
岩手県： ボランティア団体(サロン、子育て)、ガールスカウト、スポーツ少年団

宮城県： ボランティア団体(サロン、子育て、学習支援、健康体操等)、スポーツ少年団

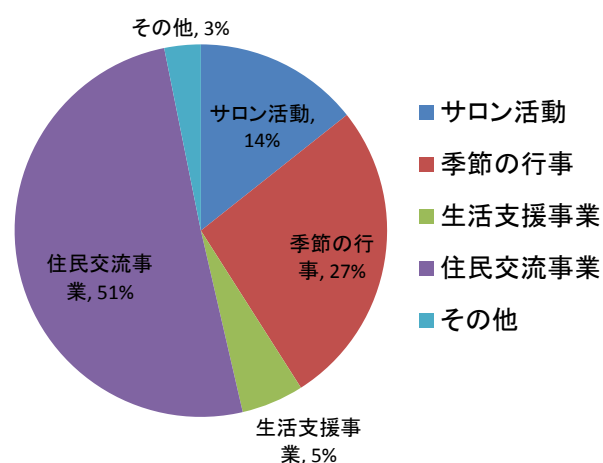
福島県： ボランティア団体(サロン、子育て、健康体操等)、グランドゴルフ
サークル活動(手芸・山の会・民謡・ヨガ・フラダンス等)

2013年度・住民支え合い活動助成(県別事業分類内訳)

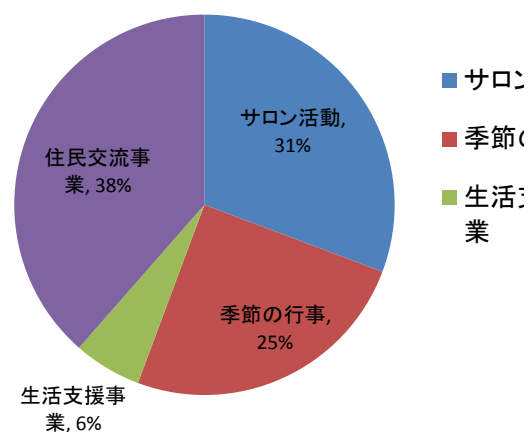
【岩手】



【宮城】



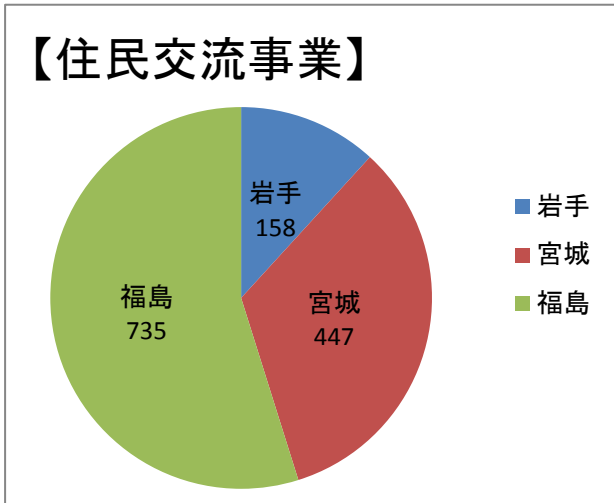
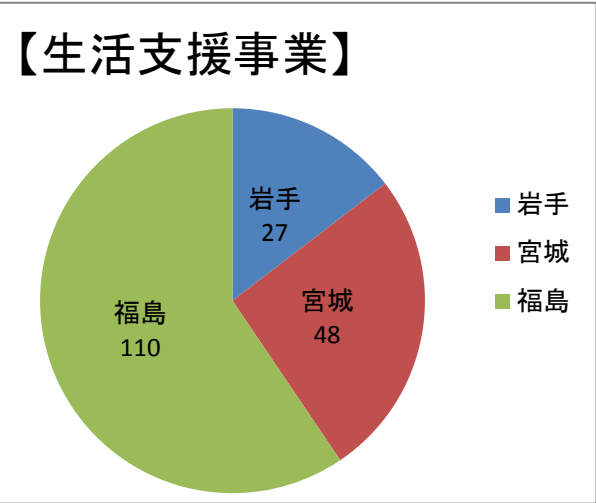
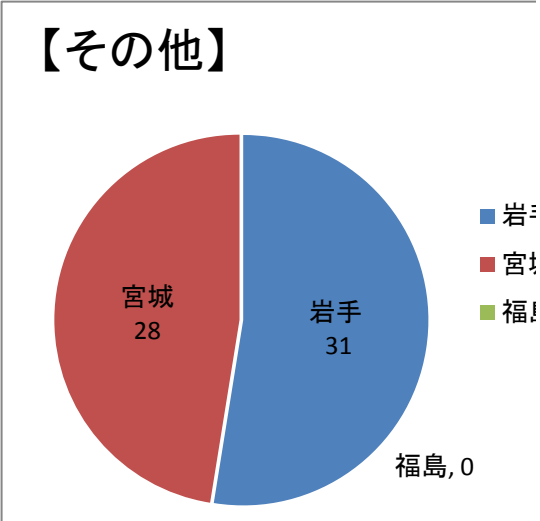
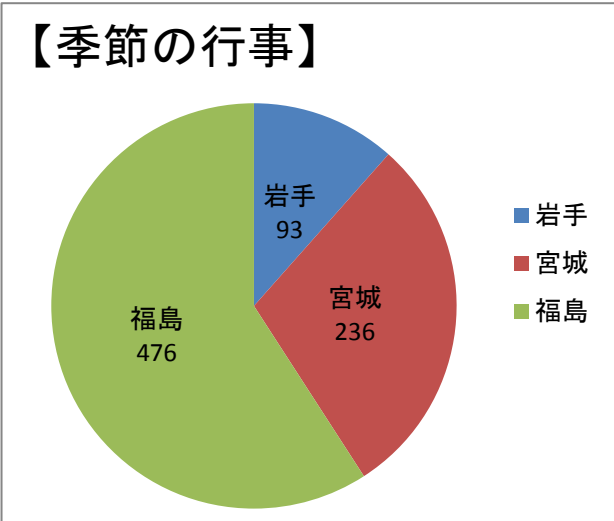
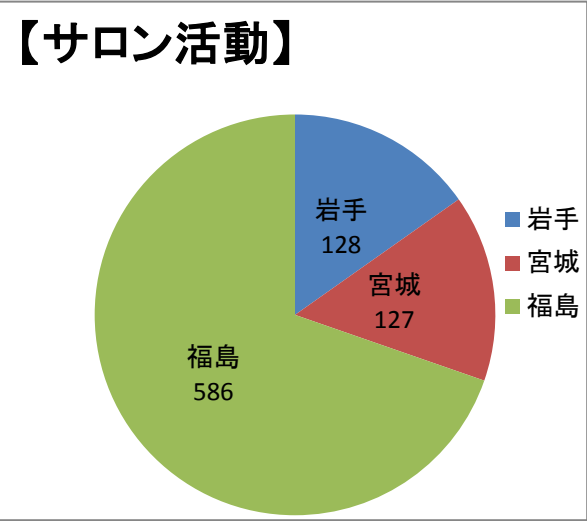
【福島】



【その他・具体例】

・地域情報誌の発行、マッサージ、手をつなぐ親の会交流、高台移転のための会議等

住民支え合い活動助成(事業分類別比較)



赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金2」(ボラサポ2) 新しい被災地支援の形『ボラサポ2』を始めます ～コミュニティ再生のためには、住民同士の支え合い活動が引き続き必要となります～

赤い羽根の中央共同募金会(会長・斎藤十朗)では、東日本大震災の被災地を支えるボランティアやNPO活動を支える支援金「赤い羽根 災害ボランティア・NPO活動サポート募金(ボラサポ)」を運営してまいりました。震災発生から3年を迎えるにあたり、被災された方々が置かれている状況も変化していることから、本会では新たな支援の形を提案いたします。

■コミュニティ再生のための住民同士の支え合い活動を支援していきます

ボラサポは2015年3月までの助成を行うこととしています。これについては2013年12月までにお預かりした寄付金の中で運営をしていくこととしました。被災地ではその後も引き続き支援が必要な状況が続くと予想されます。特に津波や原発被害によって3県の中でもご自宅に戻れない方がまだ数多くいらっしゃいます。そうした方たちが今お住まいの仮設住宅や、これから引っ越し先の復興住宅で新しいコミュニティを築くために、つながりづくりのきっかけとなるイベントや交流事業が必要とされています。私たちはこうした住民の方たち同士の支え合い活動を中心に、2015年4月以降も助成を継続していきたいと考えています。

■新しい寄付「ボラサポ2」の募集を始めます

2014年1月からは、「2015年4月以降」の主に被災3県での活動を支援することを目的とした寄付金募集を開始します。一人でも多くの方々にこの「ボラサポ2」を引き続きご支援いただきたいと思います。

■引き続き税制優遇措置が受けられます

財務省の税制優遇措置は、本年12月末で終了いたしますが、今後本会でお預かりする「ボラサポ2」のご寄付については所得税(所得控除または税額控除)及び法人税(特別損金算入)の優遇措置が引き続き受けられます。

■皆様のご協力によりボラサポは大きな成果を上げています

震災から2年9か月が経過し、これまでににお預かりした寄付金は43億円にのびりました。2011年5月以来第12次助成までに、延べ2,534件、総額28億8,853万円(他少額助成 延べ3,446件、2億9,244万円)の助成を行うことができました。発災後すぐの緊急時支援として炊き出しや物資配布、現在は復興支援として地域のつながりづくりや子どもたちの学習支援など、幅広い活動を支えていただいております。

●金融機関の振込による「ボラサポ2」への寄付(2014年1月1日から受付開始)

三井住友銀行 東京公務部 普通 0162574 社会福祉法人中央共同募金会 ボラサポ2(ボラサポニ)

※三井住友銀行の本支店間の窓口、ATM(時間外や他行手数料、コンビニ等一部を除く)、SMBCダイレクトでの振込手数料はかかりません。

みずほ銀行 虎ノ門支店 普通 4230025 社会福祉法人中央共同募金会 ボラサポ2(ボラサポニ)

※みずほ銀行の本支店間の窓口及びATMにおける振込手数料はかかりません。

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.akaihane.or.jp/er/p8.html



Facebookページ <http://www.facebook.com/borasapo>

耳寄り情報

更新中!

●お問合せ・くわしい資料は: 社会福祉法人中央共同募金会 企画広報部(担当:武井・仲本)

TEL:03-3581-3846(FAX:3581-5755) kikaku@c.akaihane.or.jp <http://www.akaihane.or.jp>



2014年3月10日

報道関係各位

社会福祉法人中央共同募金会



武田薬品工業株式会社 ×



赤い羽根共同募金

東日本大震災の新たな支援のしくみ 「タケダ・赤い羽根 広域避難者支援プログラム」を開始します

社会福祉法人中央共同募金会(会長:斎藤 十朗)は、武田薬品工業株式会社(代表取締役社長:長谷川 閑史)の寄付プロジェクト「日本を元気に・復興支援」※1)から約2億円を寄託され、東日本大震災により被災3県外に避難されている方々(以下、「広域避難者」)を支援するプログラムを、2014年度より開始します。

2016年度までの3年間にわたり、各地で広域避難者のための支援活動を行う団体を対象に、資金や運営のサポートを行います。

【「タケダ・赤い羽根 広域避難者支援プログラム」概要】

1. プログラム内容:団体の状況に合わせた2種類の助成

① 「団体助成」

避難されている方々が主体的に活動しながら、各地域ブロックで中心的な役割を果たしている支援団体への助成です。団体が、息の長い継続的な取り組みを行うため、活動に必要な資金を助成するとともに、団体の組織基盤強化や運営相談などのサポートを、個別研修、報告会開催、訪問支援などを通じて実施します。また、固定的な相談員を確保するための人件費なども助成します。なお、助成先については、中央共同募金会および連携団体※2)におけるプロジェクトチームにて決定します。

※2)連携団体:特定非営利活動法人日本NPOセンター、東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)

② 「活動助成」

各地の活動団体では、被災者が直面している生活課題を解決するために、サロン活動や相談などさまざまな支援活動に取り組んでいます。「活動助成」では、こうした小規模な活動を行うための資金助成を行います。助成の受付や審査等は、「赤い羽根共同募金」の既存の枠組みを利用して行います。

2. 寄付総額:2億8万7,207円

3. 期間:3年間(2014年度～2016年度)

4. 背景:

東日本大震災から3年。復興庁によると、いまだ26万人もの方々が、従来の居住地を離れての生活を余儀なくされています(2月末現在)。全国的に見てその実態は把握しきれておらず、実数はさらに増えると考えられます。そのなかでも5万人を超えるといわれる広域避難者が置かれている状況は、住居、就業、就学など、時が経つに従って個別化、深刻化しており、長期化しつつあります。当面の生活支援や、ネットワークづくりを目的に、当事者自身または支援団体による、支援活動が各地で行われていますが、資金難や各地の支援体制の違い等さまざまな事情により、支援が円滑に進んでいるわけではありません。

そこで中央共同募金会では、広域避難者支援に特化した「タケダ・赤い羽根 広域避難者支援プログラム」によって、各地で広域避難者の支援活動を行う団体を支援することとしました。

弊会では、発災直後から、「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金(ボラサポ)」による被災者支援活動への助成を続けており、その専門性や、赤い羽根共同募金の全国ネットワークを活かして、本プログラムに取り組みます。

※1)「日本を元気に・復興支援」は、武田薬品工業株式会社が、アリナミン類の収益の一部を積み立て、年間約8億円を3年間にわたり多岐におよぶ復興支援プログラムに拠出する寄付プロジェクト(2011年4月より開始)。



■武田薬品工業株式会社

70ヵ国以上に事業基盤を有するグローバル製薬企業。230年を超える長い歴史の中で培われた普遍の価値観である「タケダイズム（誠実：公正・正直・不屈）」を根幹に、「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」というミッションを持つ。

ホームページ <http://www.takeda.co.jp/>



■赤い羽根共同募金

毎年10月から行われる「赤い羽根共同募金」は、「じぶんの町を良くするしくみ。」をテーマに、年間約6万件にわたる各地の住民ボランティアや地域福祉活動（高齢者、障がい者、子ども、災害時支援など）を応援している。使いみちはホームページで公開。

ホームページ <http://www.akaihane.or.jp>

■社会福祉法人 中央共同募金会

社会福祉法人中央共同募金会（会長：斎藤十朗）は、全国47都道府県共同募金会相互の連絡および事業の調整を行うことを目的とした連合会で、赤い羽根をシンボルとする共同募金運動の全国的な企画、広報、調査研究等を行っている。

●お問い合わせ先 社会福祉法人中央共同募金会 企画広報部 募金開発チーム（担当：山内・青柳）
TEL：03-3581-3846（FAX：3581-5755）
メール：kikaku@c.akaihane.or.jp
ホームページ <http://www.akaihane.or.jp/>